

教育実習における学生への指導内容に関する研究

—テキストマイニングによる実習日誌の助言分析—

Study on The Contents of Advice Given to Students During Their Teaching Practice

— Analysis on Advice of Practical Report by Text Mining —

柴田 卓* 伊藤 哲章* 猪股 照子*

Suguru Shibata Tetsuaki Ito Teruko Inomata

仲西真美子* 三瓶 令子*

Mamiko Nakanishi Reiko Sampei

In this research, we attempted a text mining analysis on the advice column written by ninety-one kindergarten teachers in their feedback to students regarding their teaching practice. Based on the analysis results and discussion, the contents and trends are as follows:

1. Understanding Children, 2. The students' ability to interact with children, 3. The students' level of initiative, 4. Understanding of teachers' skills and thoughts, 5. The students' actual field performance, 6. The importance of the students' self-reflections.

By carefully reading out the "analysis result" and "actual advice sections", it became clear what kind of difficulties the students faced during the practical training, and what kind of recommendations were given to access and evaluate their skills. This data will be valuable when teaching students and will have an important role as specific subject matter to be shared among faculty members.

1. はじめに

近年、待機児童の問題が注目を集める中、保育士不足も深刻化している。特に地方における保育士不足は喫緊の課題であり、地元の保育者養成校の果たす役割は大きいのだが、誰もが安易に専門資格を得られるべきではない。その専門性を十分に修得し、生涯学び続ける態度や姿勢を身につけて保育の現場に送り出したいと願うものである。しかしながら、実習を機に保育者になることをあきらめる学生も少なからず存在するのも事実であり、保育者養成校と実習生を引き受ける保育現場が一体となって学生を育て、地域で活躍する保育者を育てていくことが理想といえよう。本学においても、2年次の教育・保育実習を大学での学びと保育現場を繋ぐ

* 幼児教育学科

最も重要な実践的学習として位置付けている。しかし、昨今の学生の実態および実習後のアンケート調査を鑑みると、必ずしも2年次に実施される実習が有意義な実践的学習となっていないケースがあることも見えてきた。

学生に目を向けると、現場でおきているさまざまな現象に気付けない、一日の目標が定まらない、現場教員の言葉掛けの意図を汲み取れないなど様々である。このような状況から混乱をまねき、学習意欲が低下してしまう学生が少なくないのである。また、必ずしも保育技術に関する問題ばかりではなく、日常の些末なことから発生する出来事に対処できないことでも同様に学習意欲が低下することもある。さらに、実習生のためにと真摯に注意指導されることと、叱責されることを混同してしまうこともある。実習後の学生アンケートおよび報告会から、実習中に学生に対して要求する現場の視点と養成校で指導している視点が必ずしも一致していないなどの課題も見えてきた。

一方、保育者養成校側に目を向けると、短期大学における過密なカリキュラムの問題として、実習前に履修することが望ましい専門科目を実習前に開講できないこともある。また、各教科で学修した専門知識や技術が実習に向けて統合されず、実習で生かされていないというケースもある。担当する教科が実習のどの場面でどのように生かされるのか、実習中に学生がどのような指導を受けているのかなど、養成校教員が課題を共有し、それぞれの専門的立場で連携しながら実習へ向けた指導を実施することが望まれている。

こうした課題に対し、本学では実習を中心とした科目・教員間の連携について検討を試みた¹⁾。その結果、実習中に起こる出来事をより鮮明に捉え、現場での指導内容の傾向を教員間で共有できていないことが明らかとなった。そこで、本研究は養成校の教員間で共有すべき課題を浮き彫りにするため、教育実習における実習担当者の助言および指導に着目した。次に、教育実習の日記における指導者による助言欄のテキストマイニング分析を試み、その内容と傾向を探ることにした。

実習に関する先行研究は、以下の通りである。

坪内²⁾は、実習指導には組織の受け入れ体制が大きく影響していると考え、相談機関実習におけるコメント指導に着目し、学生の学びとの関係を理論化することに加え相談機関の指導体制がコメント指導に与える影響について比較検討から明らかにした。2006、2007年度4年制A大学において、4年次に相談機関で10日～12日間の社会福祉援助技術現場実習Ⅲを行った学生12名の実習日記への指導職員による書き込みを対象とし、GTAから分析を行った。学生、指導職員間をリアルタイムに日記が行き交う指導の中で、学生の日記が日々変化していく様相が見られ、またこの指導により、リフレクションの強化、モニタリングの焦点化による考察の質の向上、言語化の促し、学生のモチベーションを支えている等、4つの効果があるとしている。学生の実習日記のコメント指導には組織における指導体制が反映されており、そのことに

よって指導における着眼点や表出される内容が異なることを概念として提示している。今後の課題として、機関と施設の実習プログラムの比較による学生の学習効果の相違など、実習教育における学びの本質についてさらなる研究が必要と述べている。

太田³⁾は、実習事前指導への指針と課題を得ることを意図し、2年次の幼稚園教育実習の学習成果並びに課題に関して、実習生の具体的な捉え方の把握と実習生と指導者における捉え方の比較検討をした。対象は、羽陽学園短期大学の2年次学生115名と、当該短期大学附属幼稚園で実習指導した幼稚園教諭28名である。質問紙による調査を実施し、結果の分析にはFriedman検定、t検定を用いた。これらは責任実習を主とする2年次の幼稚園教育実習における学習成果と課題についての実習生の捉え方とその指導教諭の捉え方の相違について検討している。2年次幼稚園教育実習に対する実習生の捉え方については、当該実習ならではの学習内容における学びが充実することで当該実習実施の意義が一層向上することから、今後その観点を実習前の指導に反映させることが求められるとしている。質問用紙における実習生と指導教諭による回答から、指導教諭、実習生双方の傾向と対策が見え、実習生に不足している意識、能力の育成に繋がる事前・事後指導の在り方について改善が必要であると述べている。

矢萩⁴⁾は、田園調布学園大学の「子育て支援実習」を通じた保育学生の学びの実態、当該実習を通じて保育者の専門性がどのように養成されたのかを明らかにするため、2013年度～2016年度「子育て支援実習・子育て支援実習指導」を履修した18名分の日誌を対象に、実習日誌に記載された記録内容について、日録のエピソード記録欄ならびにエピソード的な記述部分を中心に分析・考察した。日誌からは、学生個々の特性や学びの特徴が記述内容の傾向として表れること、実習先の実習指導者の支援に対する考え方や姿勢が内容に影響することなどが読み取れるとしている。また、研究方法の問題として、数値化しにくい個々の学生の体験の成果をどのように検証していくかを挙げており、質的・量的研究の両論で子育て支援実践の評価基準と尺度を開発することが目指されるべきと述べている。

これらの先行研究は、本研究の着想や構成に多くの示唆を与えた。しかし、これまでの実習を対象とした研究は、学生の学習効果や学生が記録した日誌の内容に着目したものがほとんどであり、実習先の保育者や保育者が記入した日誌の助言欄に着目した研究は見当たらない。加えて、実習日誌における保育者の助言欄に対してテキストマイニング分析を試みた研究は皆無と言える。従って、本研究は保育者養成校における実習指導および授業改善に役立つ知見を得られるものと期待している。

2. 研究方法

1) 実習期間

本研究で取り上げる実習は、2018年6月4日から15日までの10日間で実施されたK短期大学幼児教育学科の2年次に行われた教育実習Ⅳである。139名の学生が実施した。

2) 調査対象

調査対象は、上記教育実習日誌における実習担当者(保育者)が記入した助言内容である。10日間の内容に加え、部分実習および責任実習における内容を調査対象とした。なお、実習日誌における助言欄を分析対象とするため、実習園に対して事前に研究の趣旨説明書および同意書を配布し、同意書の回答があった園のみを対象とした。調査対象者数は91名である。また、学生に対しても調査の趣旨を説明し、同意を得ている。

3) 手続き

本研究は、実習園担当者による助言内容を分析対象としたため、その内容が膨大且つ多岐に渡ることが予想された。そこで、可能な限り分析者の主観的な解釈が入り込まないように「テキストマイニング」^{5) 6)}という手法を用い、分析ツールとしてKH Coderを採用した。KH Coderの特徴は、「語の選択にあたり恣意的となり得る手作業を廃止し、多変量解析によってデータ全体を要約・提示することと、コーディング規制を公開するという手順を踏むことによって操作化における自由と客観性の両立を可能にしている」⁷⁾ことである。本研究の調査対象である実習日誌の助言内容は10日間の自由記述に加え、部分実習および責任実習と膨大であり、6つのセクションに分類した。前半部分として①実習開始から3日目、中間部分として②4日目から6日目、後半部分として③7日目から10日目、④日誌最後の助言欄 ⑤部分実習の助言欄、⑥責任実習の助言欄の6つのセクションである。

現場保育者の助言として得られた自由記述のサンプル数は5,896件であり、5,948件の文章が確認された。分析に使用される語は52,315語であった。

3. 結果

はじめに、表1-6は教育実習の日誌における幼稚園教諭の助言から頻出語をまとめたものである。次に、図1-6は、KH Coderの「共起ネットワーク」のコマンドを用い、幼稚園教諭の日誌の記述の中で出現パターンの似通った語(すなわち共起の程度が強い語)を線で繋いだネットワークである。なお、分析にあたって、出現数による語の取捨選択に関して、図1, 2, 5は最小出現数20, 図3は最小出現数25, 図4, 6は最小出現数10に設定し、描画する共

表1 実習1日目から3日目

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	343	実習	314	大切	72	今日	46	思う	265
2	先生	92	保育	105	積極	51	たくさん	44	見る	108
3	自分	91	観察	62	必要	35	明日	30	関わる	96
4	言葉	68	援助	53	様々	26	時間	23	出来る	85
5	遊び	67	活動	39	いろいろ	13	前	19	頑張る	65
6	気持ち	61	成長	39	色々	12	日々	17	感じる	51
7	部分	61	対応	38	大変	10	今回	16	考える	43
8	一人ひとり	53	緊張	32	丁寧	10	全体	13	伝える	43
9	様子	45	反省	29	大事	8	今後	12	遊ぶ	37
10	関わり	39	生活	25	好き	7	時期	12	学ぶ	36
11	初日	34	一緒	24	スムーズ	6	毎日	10	楽しむ	35
12	友達	31	行動	24	疑問	6	今	8	違う	34
13	笑顔	28	話	22	苦手	6	間	7	気づく	31
14	流れ	27	会話	19	元気	6	年中	7	聞く	30
15	思い	25	指導	19	年少	6	普段	7	向ける	27
16	トラブル	22	経験	15	安全	5	次回	6	掛ける	25
17	年長	22	関係	14	個別	5	自ら	6	気付く	25
18	子ども	21	工夫	14	自然	5	その後	5	増える	22
19	幼児	21	解決	13	上手	5	それぞれ	5	行う	21
20	クラス	19	信頼	12	大好き	4	全て	5	持つ	21

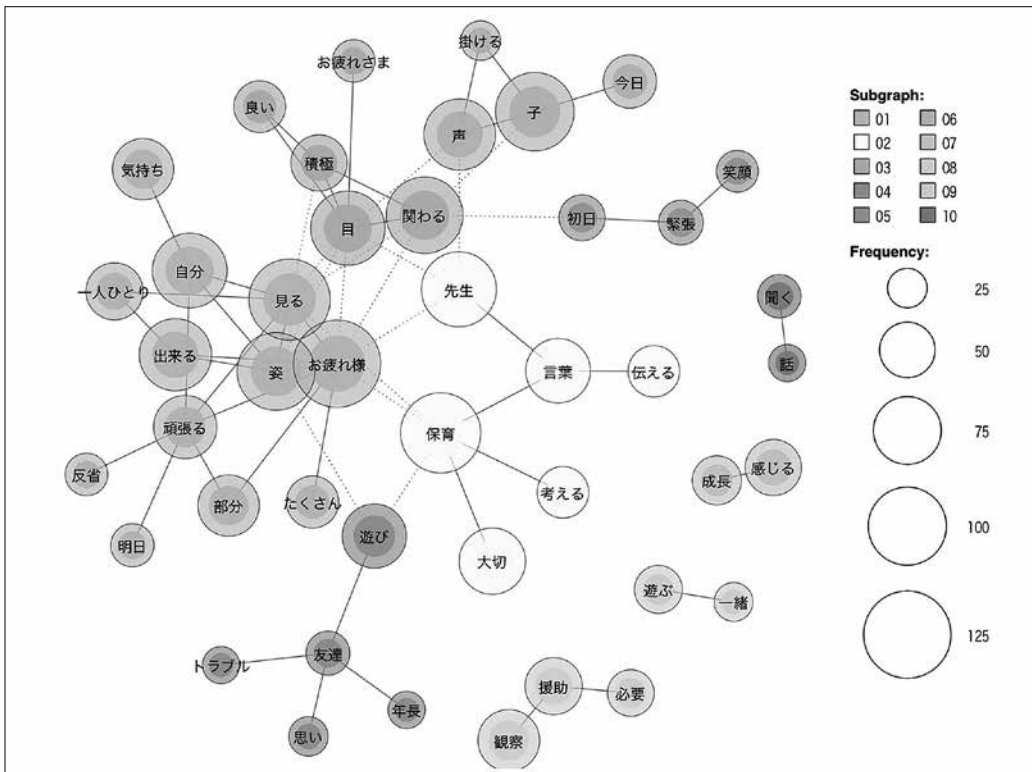


図1. 実習1日目から3日目までの自由記述助言欄 共起ネットワーク

表2 実習4日目から6日目

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	361	実習	245	大切	102	今日	44	思う	258
2	先生	121	保育	126	様々	43	時間	37	見る	119
3	遊び	103	活動	75	必要	39	たくさん	27	出来る	83
4	言葉	79	援助	47	積極	21	前	23	考える	76
5	自分	72	観察	44	安全	17	全体	23	頑張る	54
6	気持ち	67	反省	40	いろいろ	15	今回	15	感じる	47
7	部分	46	行動	32	スムーズ	11	今後	14	関わる	47
8	様子	39	総合	28	元気	11	日々	13	伝える	44
9	一人ひとり	36	準備	26	大事	11	今	12	持つ	36
10	関わり	30	製作	26	危険	10	間	11	違う	34
11	思い	28	一緒	23	好き	9	普段	11	行う	32
12	自信	28	生活	23	大丈夫	9	明日	11	学ぶ	30
13	場面	28	対応	23	苦手	8	それぞれ	10	聞く	28
14	年長	24	話	22	自由	8	次回	8	遊ぶ	27
15	友達	24	理解	20	色々	8	一番	7	掛ける	25
16	クラス	23	経験	17	大変	8	ひとつ	6	進める	25
17	トラブル	21	工夫	16	丁寧	8	時期	6	伝わる	25
18	環境	19	指導	16	不安	8	前日	6	気付く	22
19	笑顔	18	意識	15	十分	4	朝	6	分かる	22
20	残り	17	参加	14	上手	4	近く	5	楽しむ	21

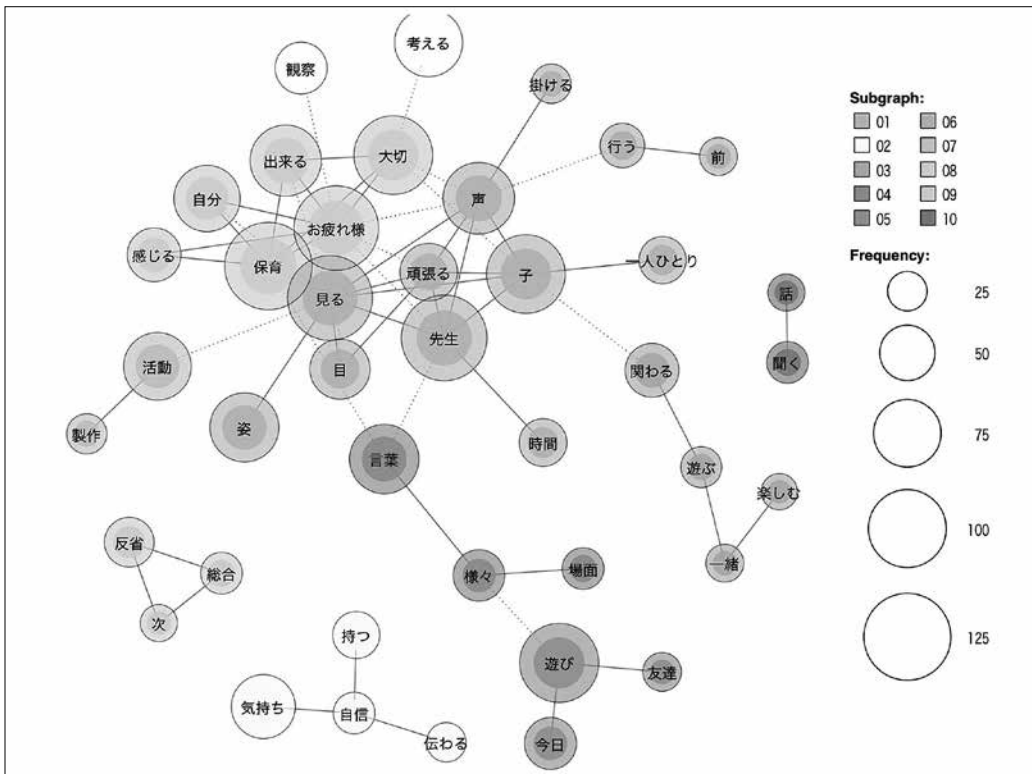


図2. 実習4日目から6日目までの自由記述助言欄 共起ネットワーク

表3 実習7日目から10日目

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	441	実習	312	大切	149	今日	67	思う	361
2	先生	142	保育	161	必要	60	時間	48	見る	152
3	自分	94	活動	124	様々	29	全体	48	出来る	113
4	遊び	85	反省	67	いろいろ	23	たくさん	40	考える	79
5	気持ち	77	対応	47	スムーズ	22	今後	28	頑張る	77
6	言葉	75	一緒	42	積極	17	今	24	関わる	68
7	部分	55	援助	40	丁寧	17	前	21	伝える	68
8	様子	53	行動	38	安全	14	今回	20	感じる	60
9	お子さん	50	製作	37	大事	14	日々	20	進める	51
10	一人ひとり	46	経験	35	色々	13	全日	14	行う	47
11	責任	40	総合	35	大変	13	昨日	12	楽しむ	45
12	思い	39	話	35	好き	9	明日	12	聞く	43
13	トラブル	36	工夫	33	大好き	9	間	10	学ぶ	40
14	子ども	36	指導	33	危険	7	普段	10	伝わる	39
15	最終	35	意識	31	苦手	7	それぞれ	9	違う	38
16	興味	29	観察	25	個別	7	初め	7	気づく	37
17	自身	29	計画	24	素敵	7	途中	7	遊ぶ	36
18	ゲーム	27	緊張	22	自然	6	毎日	7	気付く	33
19	ルール	27	準備	22	重要	6	午前	6	掛ける	32
20	関わり	26	成長	21	不安	6	前日	6	持つ	31

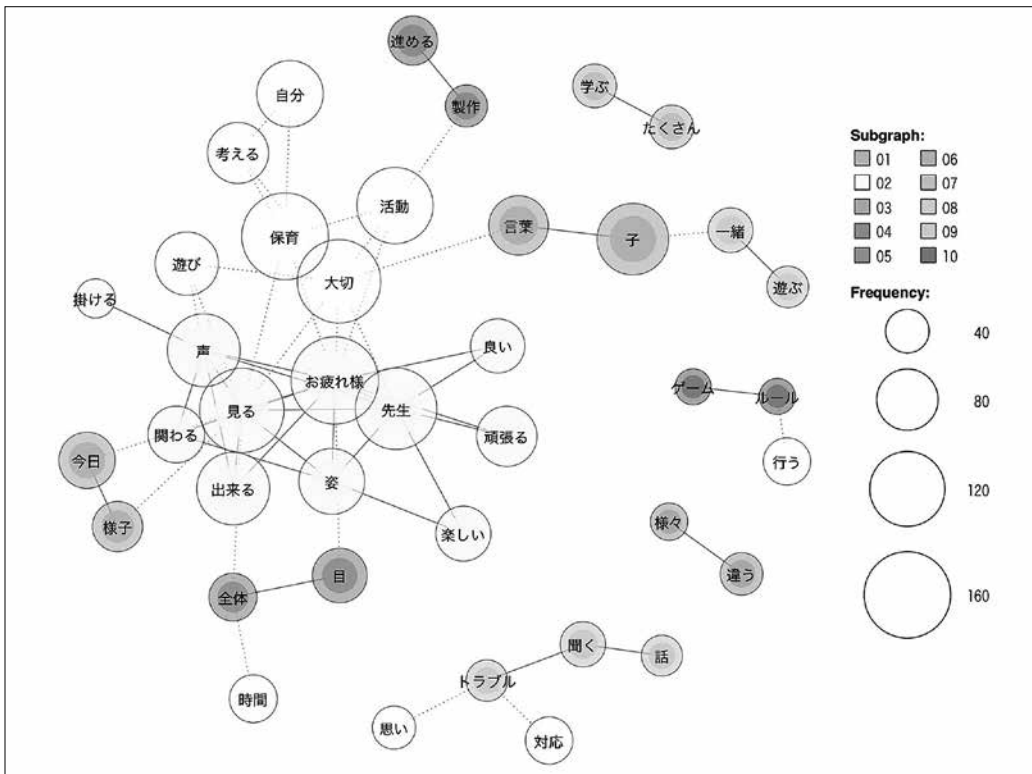


図3. 実習7日目から10日目までの自由記述助言欄 共起ネットワーク

表4 最後のコメント

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	165	実習	172	大切	48	今回	31	思う	116
2	先生	72	保育	111	素敵	16	今後	26	頑張る	52
3	自分	40	反省	25	様々	14	たくさん	24	出来る	47
4	言葉	35	経験	20	必要	13	日々	13	学ぶ	34
5	一人ひとり	25	成長	20	いろいろ	11	一生懸命	9	関わる	31
6	笑顔	23	活動	16	積極	10	前	8	見る	30
7	責任	20	援助	15	大変	9	今	7	考える	27
8	気持ち	16	対応	14	丁寧	7	時間	5	感じる	26
9	部分	16	計画	13	大好き	6	全体	5	活かす	15
10	お子さん	15	理解	12	健康	5	全て	4	持つ	15
11	自身	14	安心	11	前向き	5	普段	4	生かす	13
12	環境	12	応援	10	苦手	4	それぞれ	3	気付く	12
13	子ども	12	仕事	10	はるか	3	多く	3	取り組む	12
14	課題	11	関係	9	スムーズ	3	年中	3	気づく	11
15	姿勢	11	指導	9	安全	3	すべて	2	行う	11
16	クラス	10	生活	9	好き	3	一斉	2	進める	11
17	関わり	9	緊張	8	自然	3	間	2	伝わる	10
18	様子	9	準備	8	十分	3	時期	2	立てる	10
19	自信	8	話	8	色々	3	初め	2	違う	9
20	ご苦労	7	観察	7	不安	3	朝	2	楽しむ	8

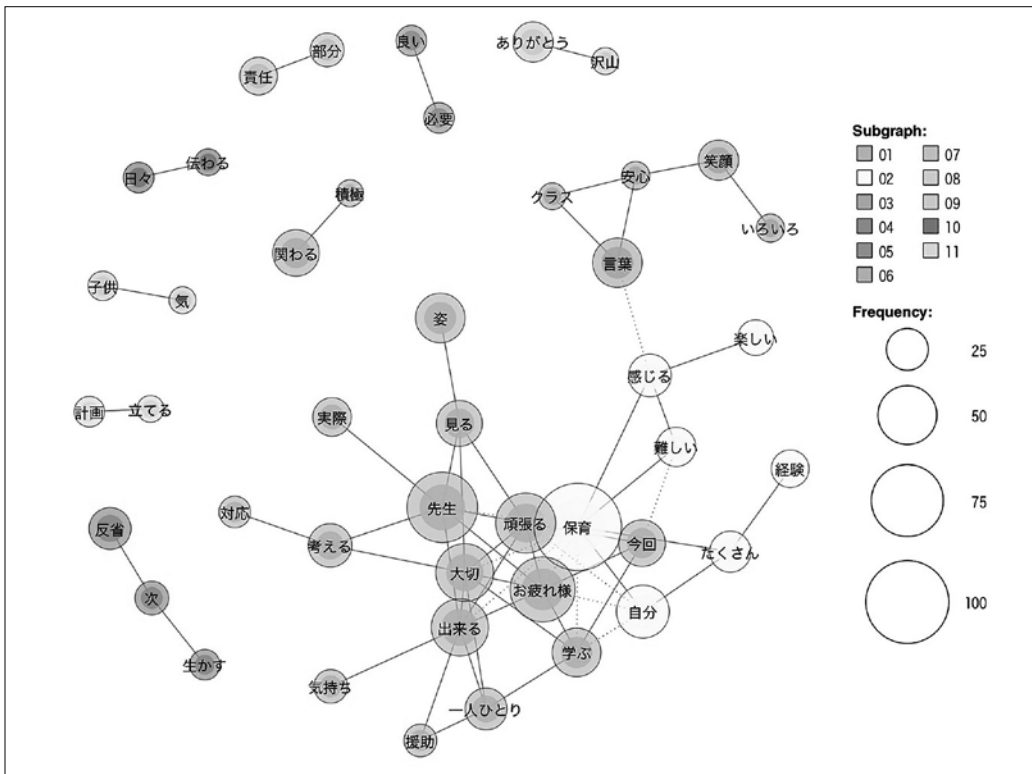


図4. 最後の助言欄 共起ネットワーク

表5 部分実習

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	347	実習	173	大切	74	時間	77	思う	348
2	部分	129	活動	63	スムーズ	39	前	37	見る	94
3	先生	89	反省	55	必要	28	今日	35	出来る	81
4	絵本	82	保育	47	様々	16	全体	23	楽しむ	67
5	言葉	50	緊張	35	色々	14	たくさん	20	考える	59
6	自分	48	話	34	大事	13	明日	20	読む	59
7	手遊び	44	準備	33	いろいろ	12	今回	18	進める	53
8	シアター	40	工夫	31	大変	11	次回	12	頑張る	51
9	気持ち	39	集中	31	自然	9	今後	10	聞く	49
10	興味	33	対応	26	静か	9	間	9	行う	48
11	流れ	33	反応	26	丁寧	8	今	9	持つ	45
12	遊び	32	援助	25	大好き	7	お昼	7	伝える	35
13	内容	28	意識	21	元気	6	途中	7	感じる	34
14	様子	27	計画	21	好き	6	毎日	7	楽しめる	33
15	お子さん	25	理解	21	自由	5	初め	6	落ち着く	32
16	パネル	25	イメージ	20	積極	5	日々	6	歌う	28
17	ルール	24	確認	20	大丈夫	5	一番	5	出る	28
18	ピアノ	23	導入	19	真剣	4	時期	5	食べる	26
19	笑顔	23	予想	19	夢中	4	朝	5	分かる	25
20	帰り	21	食事	18	簡単	3	ひとつ	4	生かす	23

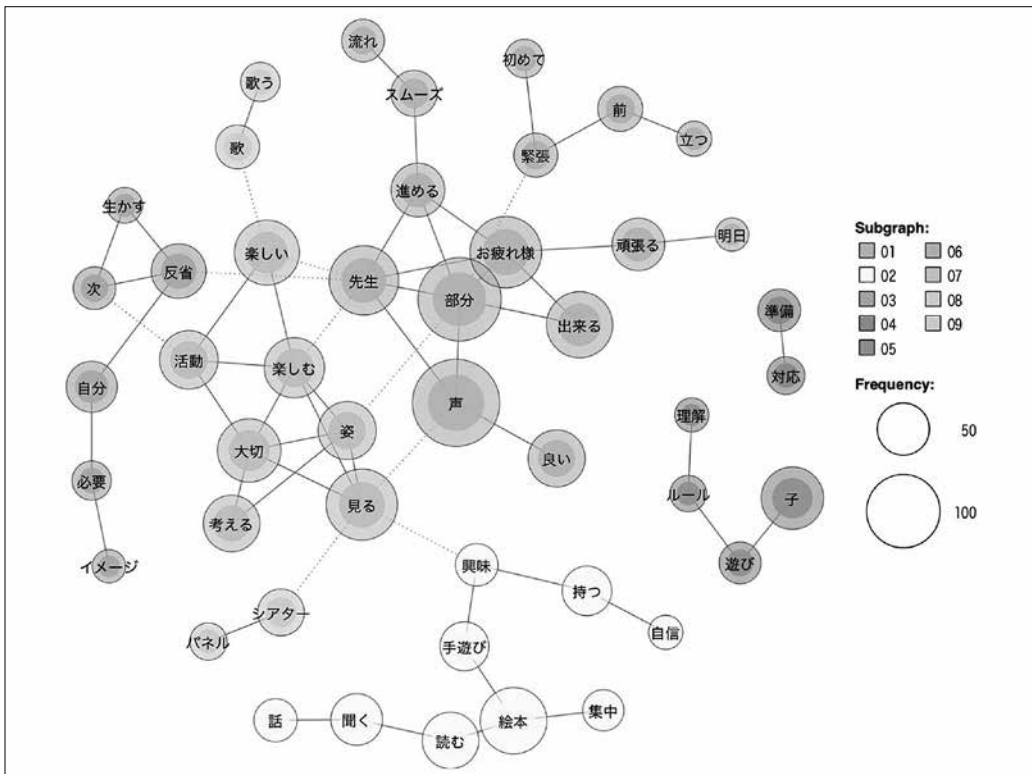


図5. 部分実習の助言欄 共起ネットワーク

表6 責任実習

順位	名詞	頻度	サ変名詞	頻度	形容動詞	頻度	副詞可能	頻度	動詞	頻度
1	子ども	181	実習	106	大切	65	時間	59	思う	211
2	先生	43	活動	85	必要	29	たくさん	20	出来る	51
3	遊び	36	製作	59	様々	13	今日	20	見る	45
4	自分	35	保育	50	大変	10	全体	18	考える	44
5	責任	35	反省	43	いろいろ	9	今回	17	進める	35
6	ゲーム	23	計画	32	スムーズ	9	前	12	楽しむ	31
7	様子	20	総合	31	安全	6	今	8	行う	25
8	気持ち	18	対応	30	丁寧	6	今後	8	感じる	23
9	言葉	18	工夫	24	急	5	全日	8	頑張る	23
10	お子さん	17	準備	22	主	5	一斉	7	使う	23
11	一人ひとり	15	予想	18	十分	5	普段	4	伝える	23
12	内容	15	行動	15	色々	5	その後	3	生かす	22
13	流れ	13	配慮	14	好き	4	一番	3	関わる	18
14	場面	12	経験	13	大事	4	間	3	持つ	18
15	ルール	11	意識	12	明確	4	昨日	3	作る	16
16	子ども	11	援助	12	簡単	3	前日	3	落ち着く	15
17	課題	9	説明	12	重要	3	途中	3	活かす	14
18	動き	9	配分	12	得意	3	日々	3	遊ぶ	14
19	年齢	9	確認	11	危険	2	明日	3	合わせる	13
20	部分	9	予測	10	個別	2	それぞれ	2	立てる	13

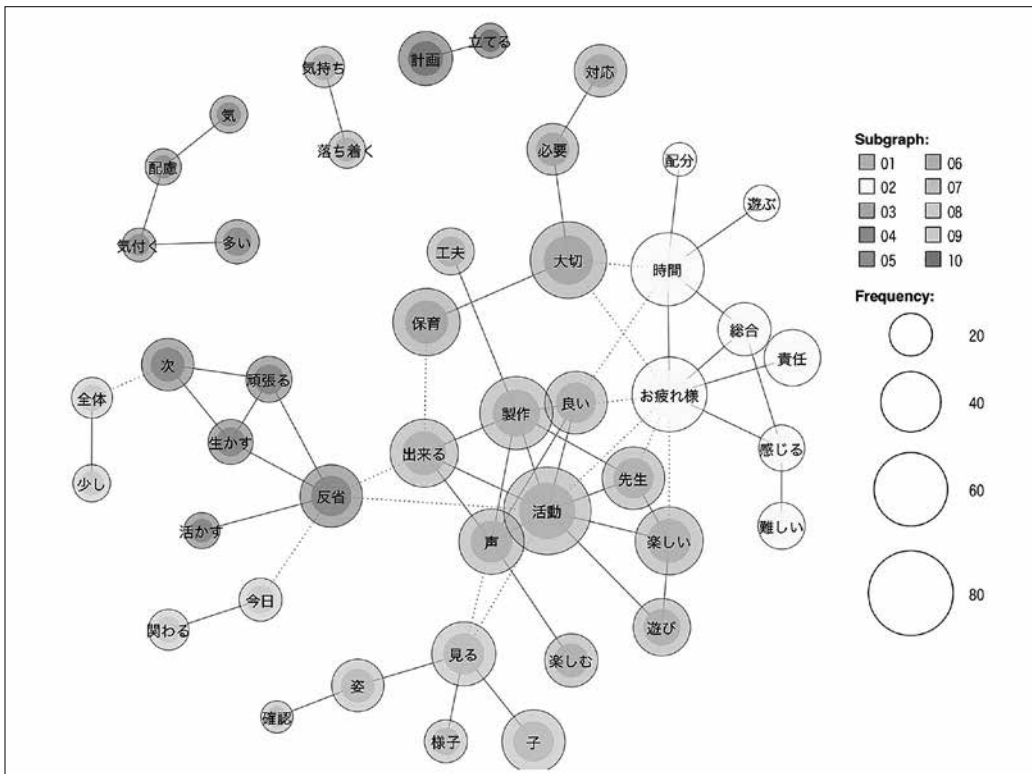


図6. 責任実習の助言欄 共起ネットワーク

起関係の絞り込みにおいては描画数を全ての図で60に設定した。各図において、強い共起関係ほど太い線で、出現数の多い語ほど大きな円で描画されている。なお、共起ネットワークでは、分析を明瞭に行うため、各セクションにおいて頻度の高い「子ども」と「実習」の2語を削除した。

4. 考察

(1) 頻出語による助言の傾向

はじめに、頻出語(表1-6)の傾向について、実際の記述を取り上げながら考察を加える。

① 名詞の頻出語

・実習10日間(表1-3)の名詞の頻出語は、「言葉」、「一人ひとり」、「気持ち」の3つである。

【言葉】言葉に関しては、「自分の思いを全て言葉で伝えられる子ばかりではありません」等、子どもの発達や特徴の記述、「その子にあった言葉掛けが必要」、「保育者としてどのような言葉掛けを行うか」等、保育者としてどのような言葉を選択することが良いのかを指導する際に使用されることが多かった。

【一人ひとり】一人ひとりに関しては、「子ども達一人ひとりの性格が分かってくると対応の仕方もその子に応じてできるようになります」等、子どもの発達や性格の違いを捉えることが大切だとする記述、「幼児一人ひとりと丁寧に関わっている姿が見られました」等、肯定的な記述もあった。

【気持ち】気持ちに関しては、「友達に見せたい気持ち」「優しい気持ち」など子どもの気持ちに気づくこと、受け止めることへの助言が多かった。

・最後の助言(表4)では、「笑顔」、「責任」が上位にきている。

【笑顔】笑顔に関しては、「どんな時でも笑顔で、一人ひとりと接し、幼児が本当に好きだという気持ちが伝わってきました」等、学生への肯定的な記述と「保育者が楽しんで、いつも笑顔でいることで、子ども達も笑顔が増えていきます」等、笑顔の大切さを指摘する記述があった。

【責任】責任に関しては、多くの記述が「責任実習」であったが、「先生も気づいたように、保育者は子どもの命を預かり、言葉掛け、環境構成一つでその子の意欲、成長に関わるとても責任のある仕事です」等、保育者としての責任に関する記述もあった。

・部分実習と責任実習(表5-6)では、さらに「絵本」、「手遊び」、「シアター」、「ゲーム」など、実際に実施した保育内容に関する語が上位にきている。

② 「サ変名詞」の頻出語

「サ変名詞」とは、動詞の「する」が後ろに付く動詞の働きをする名詞のことをいう。

・実習10日間(表1-3)の「サ変名詞」の頻出語は、「観察」、「活動」、「援助」の3つであった。

【観察】観察に関しては、「観察実習」の使用が最も多かったが、「保育者がどんな願いをもって声掛けや援助をしているかよく観察していますね」等、保育者や子どもへの観察や「一日の流れを理解し、部分や全日実習に向けて見通しを持てるように観察を行えると、良いと思います」等、見通しや流れを理解するよう観察を促す場合などにも使用されていた。

【活動】活動に関しては、「集団活動」「一斉活動」「プール活動」「今日の活動」等の使い方が多く、「遊びや集団活動においても導入は大切になるので、今後も子ども達の姿に合わせて、取り入れてほしいと思います」という助言や「保育がスムーズに行われるためには、活動の流れを把握し、必要なものを準備しておくことや先生同士の連携が大切です」等、活動の流れに対する助言があった。

【援助】援助に関しては、「一人ひとり個性がありその一人ひとりに合った声掛けや援助をしてあげることが保育者にとってとても大切なことですが、日々の保育の中で探りながら信頼関係を築いています」等、保育者自身の「援助の仕方・考え方」を伝える、補足する記述がほとんどであった。

・最後の助言(表4)では、「反省」、「対応」が上位にきている。

【反省】反省に関しては、「日々、反省したことを次の日には修正したり、部分実習や製作などでは、一生懸命に準備したり真剣に取り組むことが出来ていたと思います」、「実習中、反省点はありましたが、反省点があるからダメということではないので、子ども達から教えられたり、気づかされたりしながら自分も力をつけて成長していきましょう」等、肯定的な記述や勇気付けるような記述が多かった。

【対応】対応に関しては、「保育者が伝えた言葉が全員に理解しやすいかという点、そうではない事もあるので、その子に合った声掛けや対応が必要になります」等、子どもの行動や言葉への対応、活動や場面への対応に関する記述が多かった。

・部分実習と責任実習(表5-6)では、「緊張」、「計画」も上位にきている。

【緊張】緊張に関しては、実習前半の部分実習において「緊張しながらも、流れを頭にしっかりと入れ、一日落ち着いて実習が出来ましたね」等、子どもを前にして緊張する様子の記述が多かったが、責任実習においては、記述が極端に減少している。

【計画】計画に関しては、「自分が保育者として動くには、子どもがどんな反応をするのか、どんな動きをするのか、予測してそれに対しての手立てまで考えて計画に入れておくことが大切です」等、計画の甘さに対する記述が多かった。特に、予想される子どもの動きの記述と、「計画していた活動が出来なかったり、時間が大幅にずれてしまったりして残念でしたね」等、時間配分に関する記述も多かった。

③「形容動詞」の頻出語に関して

・実習10日間(表1-3)の「形容動詞」の頻出語は、「大切」「必要」「様々」の3つであった。

【大切】大切に関しては、「その日の保育にあたる中で、活動の流れをよく把握し、様々な場面や子ども達の姿を想定しておくことは大切ですね」等、保育の流れや子どもの姿を想定すること、安全・マナー、その配慮や気づき等に対して使用される場合、実習生の学びや経験を大切にしてほしいというメッセージとして使用される場合、子どもへの声掛けや関わり大切さを助言する際、保育者が大切にしている子どもの学びや育ちを補足する際に使用されるなど、多岐に渡っていた。

【必要】必要に関しては、「初めての責任実習で、どこが不足していたか何が必要だったのか、先生自身での気づきがたくさんあったようですね」、「子どもの状態を見て臨機応変に行うことも必要になってきます」等、部分実習や総合実習において実習生に足りない部分への具体的な助言が多かった。

【様々】様々に関しては、「自分の保育について、子ども達に対する関わりについて等様々な悩みや反省があると思います。その思いを次の保育に活かしていくことで自分らしい保育へと繋げていけるのではないかと思います」等、様々な悩み・場面・状況・方法・遊び・対応・声掛け・子どもの姿・子どもの行動・視点など多岐に渡って使用されていた。

・最後の助言(表4)では、「素敵」が上位にきている。

【素敵】素敵に関しては、「実習当初は、緊張した様子が伺えましたが、お子さん達と過ごす中で、素敵な笑顔が見られる様になり、安心してクラスをお願いすることが出来ました」等、素敵な笑顔に関する記述と「共に笑って・共に泣いて・共に感動していけるような素敵な保育者を目指してこれからも頑張ってください」等、期待を込めて素敵な保育者と記述することが多かった。

・部分実習と責任実習(表5-6)では、特に部分実習で「スムーズ」が上位にきている。

【スムーズ】スムーズに関しては、「帰りの部分では、忘れ物の確認をきちんと行うことや、明日への期待を持たせる話をする、バスの時間に間に合うようにすることなどスムーズに進行していけるよう、子ども達への声掛けをしてほしいと思います」等、課題と助言の記述に加え、「何個かパターンの見本を作ってきてくれていたので、視覚から促すことにより分かりやすくスムーズに作ることが出来ていました」等、肯定的に評価する記述も多かった。

④「動詞」の頻出語に関して

・実習10日間(表1-3)の「動詞」の頻出は、「思う」と「見る」を除いて「出来る」、「考える」、「がんばる」の3つであった。

【出来る】出来るに関しては、「様々な状況を想定しながら、予想外の事にも慌てず対応出来るようになってもらえればと思います」等、保育活動や子どもに対しての適切な対応が出来る

と良いという助言、「入園より2か月が経ち、少しずつ子ども達同士の遊びが出来るようになり、友達への関心も高まってきました」等、何かを出来るようになるという子どもの姿に対する使用が多かった。

【考える】考えるに関しては、「子ども達一人ひとりを思い浮かべながら素材や援助を考えると良いと思います」や「保育者の動きを見て、なぜそのような援助をしたのか、考える事も大事ですが、自分だったらどんな関わりをするかなど、考えられるようになる」とさらにいいと思います」等、計画する際に子どもの姿を想像すること、学生が実施した保育内容を振り返るように促す助言、なぜ保育者がそのような関わりや声掛けをしたか、自分が保育者だったらどうするかを問う際に使用されていた。

【頑張る】頑張るに関しては、ピアノ等の具体的な課題、明日の実習、部分実習、責任実習、次のクラスに対して頑張ってくださいという労いや期待に対して使用されることが圧倒的に多かった。また、子どもの頑張る姿や学生が頑張っている姿としての使用もあった。

・最後の助言(表4)では、「学ぶ」、「関わる」が上位にきている。

【学ぶ】学ぶに関しては、「二週間の教育実習の中で、幼児理解や環境の大切さ、子ども達への関わり方や援助の仕方など先生方から指導され、実際に部分や全日実習を行い沢山の事を学ぶことが出来たと思います」等、保育者が助言した内容や学生が成長した内容等に関する記述が多かった。

【関わる】関わるに関しては、「子ども達と実際に関わる中で、計画を立てる上で必要なことが見えてきたのではないのでしょうか。一人ひとりの行動の予測から、どんな環境や援助が必要かいくつも考えておくことで、適切な関わりを選択することが出来るようになります。まずは自分なりにこうなってほしいという願いを持ち、その姿を引き出すためにいろいろな方法を試していけるといいですね」等、子どもとの関わりや適切な関わりに関する記述が多かった。

・部分実習と責任実習(表5-6)では、「楽しむ」、「進める」が上位にきている。

【楽しむ】楽しむに関しては、「保育者自身が楽しむ事で、子ども達も更に楽しめると思うので、今後の実習でも活かしてみてください」等、学生が楽しむことへの記述、「製作を楽しむだけでなく、リズム遊びを楽しむなどその後につながるようなねらいを設定すると、年齢に合った活動へつながっていくのではないかと思います」や「一部の人だけでなくみんなが楽しむためにどうすればよいか考えてみてください」等、活動を改善するための助言、一斉指導における楽しみの複雑さに関する記述も多かった。

【進める】進めるに関しては、「鬼になりたくてもなれず落ち込んでいる子や何度も鬼になる子もいたので、皆の気持ちを汲み取りながら進められると良かったですね。最後は鬼になれなかった子全員を鬼にしてゲームを進めると、皆が満足した気持ちで終えられたと思います」や「活動を進める際、一つ先のことを〈この次は～だよ〉と分かりやすく伝える事で、子ども達

が生活に見通しを持って取り組めるようにしていますので、実践してみてください」等、保育内容や展開方法に関する助言の記述が多かった。

(2) 共起ネットワークによる助言の傾向

次に共起ネットワーク(図1-6)による助言の傾向(3語以上のネットワーク)についてである。

a. 実習1日目から3日目の共起ネットワーク(図1)

- | |
|--|
| ①「遊び・友達・トラブル・思い」②「一人ひとり・出来る・姿・見る・自分・気持ち・反省」
③「保育・大切・考える・言葉・伝える・先生」④「子・声・掛ける」⑤「援助・必要・観察」
⑥「積極・関わる・良い」 |
|--|

観察実習や初めての部分実習が行われる実習1日目から3日目にかけては、主に5つのネットワークができています。①は、遊びの中のトラブルに関する内容である。②は、一人ひとりの姿や気持ち、出来ることの違い等、子ども理解に関する内容である。③は、言葉掛けや伝え方に関する内容である。④は、声掛けに関する内容である。⑤は、観察の視点やどのような援助が必要となるかに関する内容である。⑥は、積極性に関する内容である。

b. 実習4日目から6日目の共起ネットワーク(図2)

- | |
|--|
| ①「遊び・今日・友達」②「一緒・楽しむ・遊ぶ・関わる」③「様々・場面・言葉」
④「観察・先生・子・頑張る・姿・見る・一人ひとり・声・掛ける・考える」
⑤「保育・出来る・大切・自分・感じる」⑥「気持ち・伝わる・自信・持つ」⑦「反省・次・総合」 |
|--|

部分実習が多くなり、責任実習もはじまる実習4日目から6日目にかけて、主に7つのネットワークができています。①は、その日の友だちや遊び等、実習での様子や出来事に関する内容である。②は、学生と一緒に楽しむ・関わるに関する内容である。③は、様々な場面での言葉掛けに関する内容である。④は、子どもの姿や一人ひとりへの声掛けに関する内容である。⑤は、保育者や学生が子どもに対して感じることや大切だと思うことに関する内容である。⑥は、自信を持つ、気持ちを伝える等、子どもへの対応に関する内容である。⑦は、反省を生かして次の総合実習に繋げるよう促す助言である。

c. 実習7日目から10日目の共起ネットワーク(図3)

- | |
|---|
| ①「トラブル・対応・思い・話し・聞く」②「保育・大切・遊び・活動・考える・自分」
③「先生・姿・見る・関わる・声・掛ける・出来る・楽しい・頑張る・良い」 |
|---|

総合実習の頻度が高い7日目から10日目にかけては、大きく3つのネットワークができてい

る。①は、トラブルにおける子どもの思いや話を聞く等、トラブルへの対応に関する内容である。②は、実施した保育活動に対して自分なりに深く考えること、保育者が大切だと考えていることに関する内容である。③は、学生の子ども理解や声掛け、関わり、頑張りが良いとする内容と、もっとこうしたら良いという助言の内容に分かれている。

d. 実習最後の助言の共起ネットワーク(図4)

- ①「先生・頑張る・対応・考える・大切・援助・出来る・一人ひとり・学ぶ・姿・見る」
 ②「いろいろ・笑顔・安心・言葉・クラス」③「反省・次・生かす」

実習を総括する最後の助言では、大きく3つのネットワークができています。①は、頑張る先生の姿、一人ひとりの姿・援助の違いを学ぶ、見ることが出来た、考えることも大切等、学生の肯定的な側面や成長した点、保育者が大切にしていることに関する内容である。②は、安心してクラスを任せられた等の内容である。③は、実習での反省を保育者になった際に生かしてください等、助言および総括に関する内容である。

e. 部分実習の助言の共起ネットワーク(図5)

- ①「声・先生・良い・部分・出来る・流れ・スムーズ・進める・明日・頑張る」
 ②「絵本・集中・読む・話し・聞く・自信・持つ・興味・手遊び」
 ③「楽しい・活動・考える・大切・見る・楽しむ・姿」
 ④「次・反省・生かす・イメージ・必要・自分」⑤「子・遊び・ルール・理解」

部分実習の助言については、主に5つのネットワークができています。①は、声掛けやスムーズに進める等、流れに関する内容である。②は、実施した活動への評価や子どもの様子に関する内容である。③は、楽しいと思える活動の大切さに関する内容である。④は、反省を次に生かすという助言に関する内容である。⑤は、遊びのルールを理解する等、教材や展開方法に関する内容である。

f. 責任実習の助言の共起ネットワーク(図6)

- ①「良い・製作・工夫・活動・出来る・楽しむ・声・先生・楽しい・遊び」
 ②「遊ぶ・時間・配分・総合・責任・難しい・感じる」③「子・見る・様子・姿・確認」
 ④「反省・次・生かす・頑張る」⑤「保育・対応・必要・大切」⑥「気・配慮・気づく・多い」

責任実習の助言については、主に6つのネットワークができています。①は、保育内容や保育技術に関する内容である。②は、時間配分の難しさに関する内容である。③は、子どもの姿や様子に関する内容である。④は、反省を次に生かすという助言に関する内容である。⑤は、子どもや場面に応じた対応の必要性や大切さに関する内容である。⑥は、配慮や気づきに関する内容である。

6. おわりに

本研究は、教育実習日誌における保育者の助言欄を対象に、頻出語の抽出およびテキストマイニング分析を試み、その内容と傾向を探った。分析結果および考察から教育実習の日誌における保育者による助言の内容と傾向は、次の6つに整理することができた。①一人ひとりの子どもの姿や様子、発達や出来ること、思いや気持ちの違いについて気づく等「子ども理解」に関する内容、②保育中の出来事やトラブルへの対応、言葉掛けや伝え方、援助の方法等「子どもへ対応力」に関する内容、③子どもと関わる、子どもと一緒に楽しむ等「学生の積極性」に関する内容、④保育者による言葉や対応、その意図、保育者が日々の保育で大切だと考えていること等「保育者の技術や保育観の理解」に関する内容、⑤保育教材の探求、展開方法、時間配分、保育の流れ等「保育実践力」に関する内容、⑥自分なりに深く考えること、気づくこと、反省を生かして次に繋げること等「反省的実践の重要性」に関する内容である。

頻出語や共起ネットワークの傾向に加え、実際の助言を照らし合わせて丁寧に読み解くことで、実習で起こる出来事に対し、学生がどこで躓いているのか、そのことに対してどのような視点から助言がなされているかが見えてきた。このことは、実習事前・事後指導において貴重なデータとなるだけでなく、先に述べた教員間で共有すべき具体的な事項としても重要な意味を持つものである。また、課題としては、学生・子ども・担当保育者・クラスなど、出現する語の対象を特定することや、「良い」のように同じ語でも肯定的な意味を示す記述なのか「～した方が良い」とする改善点を示す記述なのか等を区別することが困難であり、出現する語の精査が必要であることも明らかになった。その点に関しては、今後の課題としたい。

〔註〕

- 1). 柴田卓 伊藤哲章 猪股照子 ポールエドワードバーナミィ 仲西真美子 三瓶令子(2018)「保育者養成校における実習を中心とした科目間連携に関する研究」郡山女子大学紀要, 第54集, 117頁-133頁.
- 2). 坪内千明(2011) 指導体制を反映した職員の役割認識とコメント指導に関する研究—学生の実習日誌に基づく質的分析—, 東洋英和女学院大学『人文・社会科学論集』第29号) 1頁-21頁.
- 3). 太田裕子(2014) 指導体制を反映した職員の役割認識とコメント指導に関する研究—学生の実習日誌に基づく質的分析—, 羽洋学園短期大学紀要第9巻第4号(通巻34号), 381頁-390頁.
- 4). 矢萩恭子(2017)「子育て支援実習」において養成される保育者の専門性—実習日誌の分析を通じて—, 田園調布学園大学紀要第12号, 169頁-193頁.
- 5). テキストマイニングとはアンケート調査における自由回答のような文書形式のデータを品詞単位の単語に分析し、頻度を数えたり統計手法などのいろいろな分析手法を駆使して、文書全体を理

解するための方法である。本調査のテキストマイニングで利用した「KH Coder」はフリーソフトウェアであり、「KH Coder」の詳細については開発者である樋口耕一氏の「社会調査のための計量テキスト分析」を参照されたい。

- 6). 越中康治 高田淑子 木下英俊ほか(2015)「テキストマイニングによる授業評価アンケートの分析：共起ネットワークによる自由記述の可視化の試み」宮城教育大学情報処理センター研究紀要, 22号, 67頁-74頁.
- 7). 共起ネットワークは、テキストマイニングにおいて最も強力な分析手法である。共起ネットワークでは、頻出語間の共起性と頻出語と外部変数の間の共起性を分析することができる。共起ネットワークについては、牛澤賢二氏の「やってみようテキストマイニング」を参照されたい。こちらのテキストの特徴は、実例に基づいて書かれている点である。